

# 循環を続けるために

～ 住み継いだとしても、森になったとしても ～

田代島は漁業、猫による観光業でまわっている。

猫が観光客を呼び、観光客は島にお金を落とし、

漁業と観光業で生計を立てる島の住民は猫を島猫として飼っている。

しかし、離島で不便なこの島は

人が減り空き家が増え、いつれ集落は森に飲み込まれていくだろう。

本提案では島の循環をささやかに続けていくための

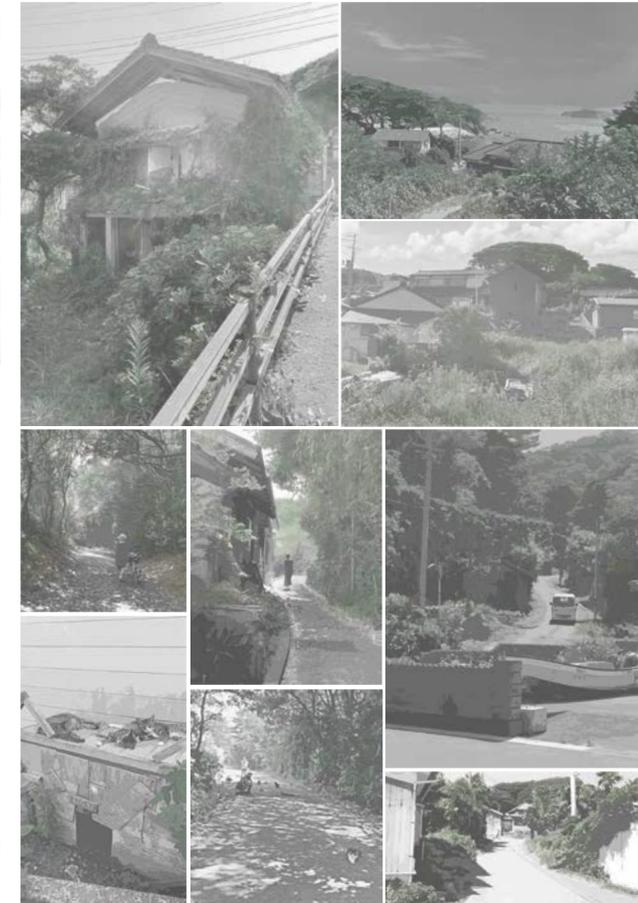
「移住者の実験住宅」を提案する。

島を少しづつ作り替えていく拠点となる「工場」

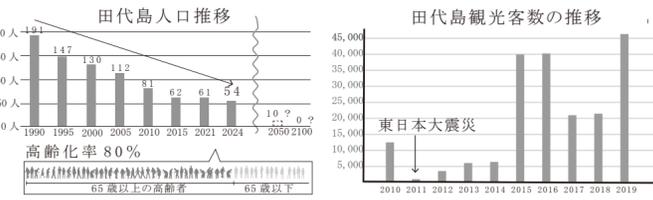
移住者の活動の幅を広げ、島と住民を繋げる「公共空間」

廃れていく風景を価値として捉える「空き家の展示動線」

田代島は新しい可能性を秘めながら、静かに生き続けていく。

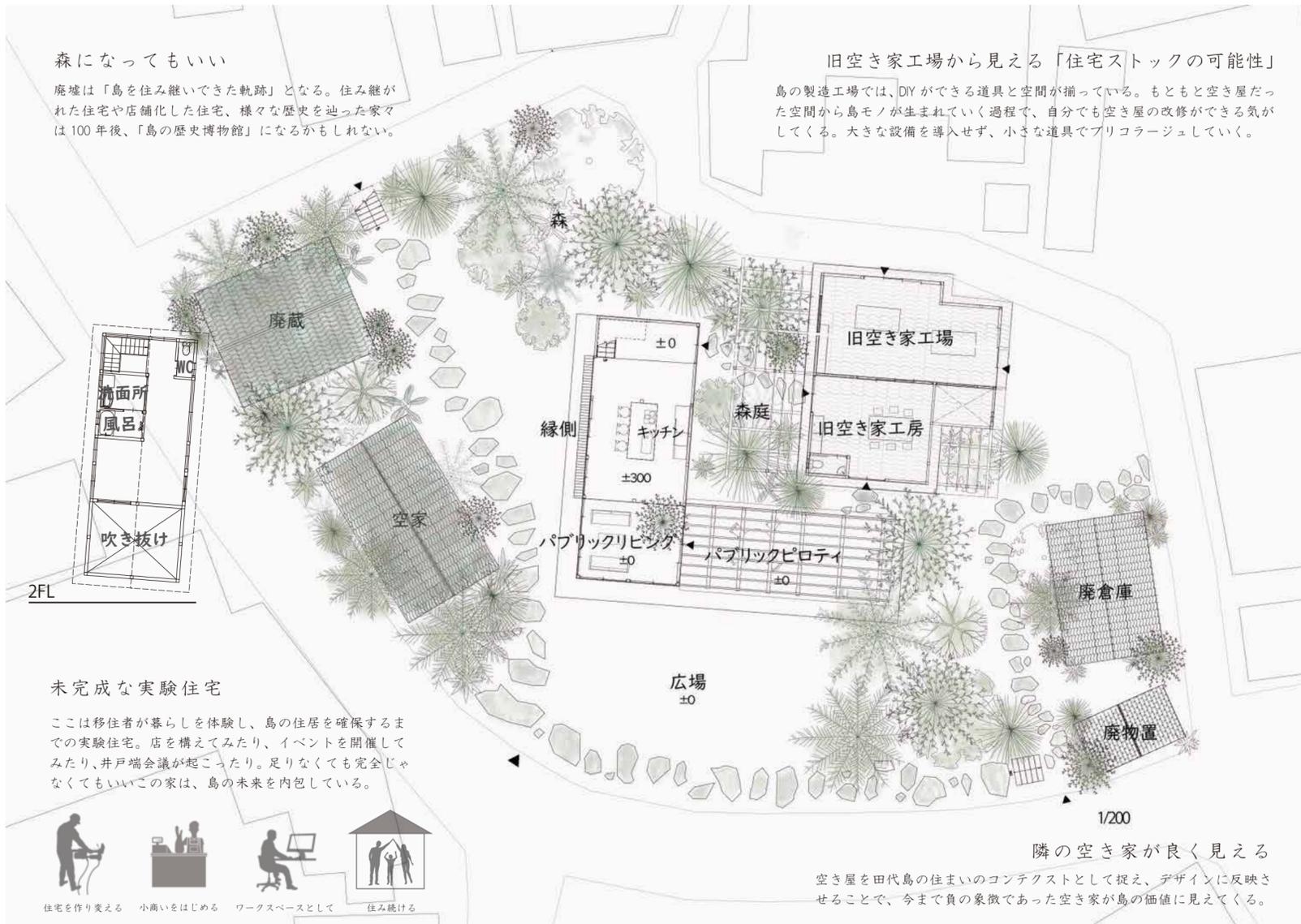


## ■ 「限界離島集落」ー宮城県 石巻市 田代島ー



## ■ 「集会所と工場」ー島のインフラとしての住宅ー

島が今ある地域循環の形を保ち続ける可能性を高めるために、移住者が住む住宅に集会所と工場の機能を設ける。島のパブリックスペースとして、製造移住者、住民、時には観光客を繋ぎきっかけになる。



森になってもいい  
廃墟は「島を住み継いできた軌跡」となる。住み継がれた住宅や店舗化した住宅、様々な歴史を辿った家々は100年後、「島の歴史博物館」になるかもしれない。

旧空き家工場から見える「住宅ストックの可能性」  
島の製造工場では、DIYができる道具と空間が揃っている。もともと空き屋だった空間から島モノが生まれていく過程で、自分でも空き屋の改修ができる気がしてくる。大きな設備を導入せず、小さな道具でプリコラーージュしていく。

未完成な実験住宅  
ここは移住者が暮らしを体験し、島の住居を確保するまでの実験住宅。店を構えてみたり、イベントを開催してみたり、井戸端会議が起こったり。足りなくても完全になくてもいいこの家は、島の未来を内包している。



隣の空き家が良く見える

空き屋を田代島の住まいのコンテクストとして捉え、デザインに反映させることで、今まで負の象徴であった空き家が島の価値に見えてくる。



▲ 森になりかけている空き家に展示動線をつくる。



▲ リノベーションした工場・工房の一部が森庭になる。



▲ 空き家(森)に対して家を開くことで空き家を風景にする。